

# 平成31年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立越ヶ谷高等学校 全日制の課程)

目指す学校像	「知・徳・体」の調和がとれた社会の発展に貢献する人材の育成
--------	-------------------------------

重点目標	1 家庭学習時間の確保とアクティブラーニングの推進 2 国立大学進学希望者への支援充実で国立大学合格者50名以上 3 規範意識及びマナー意識の高揚と部活動・学校行事を通じた人づくり 4 地域・保護者との連携・協力の強化と施設事故及び教職員事故ゼロ 5 グローバル化に伴う生徒の発信力の向上
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>○1・2年次生に隙間時間を有効活用させ、学校外での学習時間を週14時間以上とすることが引き続きの課題である。文武両道を目指しており、家庭での学習時間を確保することは難しい点がある。今年度より学習室が整備されたため、学習室や学習コンテンツ「スタディサプリ」を有効活用しながら学校外での学習時間を確保する。</p> <p>○アクティブラーニングを取り入れた授業は、学校全体で取り組めるようになってきたが、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、生徒の主体的学習力と教員の指導力向上が課題である。また、今年度より、各教科ごとに新学習指導要領による教育課程等の検討を始める計画である。</p>	<p>○学習室の利用時間も、平日2時間、週1.4時間以上の学習時間を確保する。</p> <p>○新学習指導要領及び大学入学者選抜改革に対応した新教育課程を編成する。</p>	<p>①タブレット使用環境整備によるスタディサプリの活用状況を向上させるため、進路指導部、図書視聴覚部、年次団の連携強化の取組を推進する。</p> <p>②GTEC・英語検定の受験者、合格者を増加させるため、年次団、分掌、教科の連携強化による指導を行う。</p>	<p>①生徒アンケート等により、平日2時間、週1.4時間以上の学習時間が確保できたか。</p> <p>①模試等の成績結果が昨年度を上回ったか。</p> <p>①図書館の受取関係書籍の利用度及びタブレット活用人数が昨年度より増加したか。</p> <p>②各種検定試験の受験者と合格者が昨年度より増加したか。</p>			
2	<p>○現役国立大学合格者数は26名(卒業生367名、一昨年度4名)、G-MARCH以上の難関大学合格者数は115名(一昨年度34名)であった。国立大学合格者を50名以上とすることが引き続き課題である。今年度から1年次に国立大学進学希望者クラスを設置すること、保護者に対して、国立大学や高大接続改革等についての情報を随時提供していくことが課題である。</p>	<p>○1・2年次生の国立大学進学希望者への意識を高めさせ、進学希望者数を増加させる。</p>	<p>①週休日の校内学習室利用環境を整備し、より効果的な実施計画を検討する。</p> <p>②保護者対象の進路講演会等での内容の中に国立大学についての情報を盛り込む。</p> <p>③学校説明会、中学校保護者の学校訪問で本校の国立大学進学指導の取組を説明する。</p>	<p>①学習室利用が効果的に活用できたか。</p> <p>②国立大学の情報提供として、PTA進路講演会及び大学施設見学の行事を実施したか。</p> <p>③学校説明会、中学校保護者の学校訪問で国立大学進学指導の説明を計画どおり実施できたか。</p>			
3	<p>○昨年度、自転車事故件数、通学時のマナーへの苦情件数は減少したが、発生数をゼロとすることができなかった。今年度から、登下校は認められないが、自動二輪車等の免許取得が届出制で認められるようになったので、自動二輪車関係の指導方法を検討することが課題である。</p> <p>○昨年度のスマートフォンでの年次指導件数は、1年次14件、2年次12件、3年次7件と前年度より減少しているが、スマホの指導件数は依然として多い。</p> <p>○引き続き、生徒会や風紀委員会による啓発活動を行い、指導件数を減少させることが課題である。</p>	<p>○自転車マナー及び登下校の通学マナーの向上で自転車事故及び近隣からの苦情をゼロにする。</p> <p>○スマートフォンでの年次指導件数を減少させる。</p>	<p>①年次指導部を中心に、学校周辺通学路での登校指導を徹底する。</p> <p>②入学式、始業式、終業式等の全校集会の中で生徒指導主任と管理職から「自動二輪車関係の指導」「命の大切さ」「交通安全」に関する内容を話す。</p>	<p>①計画どおり、登校指導、自転車点検が実施できたか。</p> <p>①登校指導により、近隣住民からの苦情が減少したか。</p> <p>②自転車による加害事故、事故件数が減少したか。</p>			
4	<p>○昨年度、周辺5自治体の担当者14名が参加し、本校担当者で防災合同協議会を開催した。学校と周辺自治体との防災に関する共通理解が図れた。</p> <p>○地域関係機関との連携は引き続き強化するが、生徒募集の事業については、内容の見直しも含めて精査していくことが課題である。</p> <p>○昨年度の懲戒処分者はゼロであったが、不適切な指導等は2件起こった。教職員倫理確立委員会で迅速・正確に対応し早期に解決した。教職員倫理確立委員会を一層機能させ、不適切な指導等をゼロとすることが課題である。</p>	<p>○周辺自治会との防災体制の確立と中学校等との連携を強化する。</p> <p>○教職員による不適切な指導等及び懲戒処分者をゼロにする。</p>	<p>①周辺自治会との防災合同協議会を2学期に開催する。</p> <p>②近隣中学校への出前授業、交流事業及びPTA学校訪問を積極的に受け入れる。</p>	<p>①協議会を1学期から計画的に進め、予定どおり開催できたか。</p> <p>②近隣中学校からの生徒や教員依頼に対し、すべて実施できたか。</p>			
5	<p>○海外に興味関心を持つ生徒・保護者は増えており、国際理解教育推進委員会と英語科が連携して、新たな取組を開発し、将来、国際社会で活躍できる人材を育成していくことが進学校としての今後の課題である。</p>	<p>○国際理解教育の取組により、生徒の異文化理解と英語力を向上させる。</p>	<p>①「持続可能な社会を生きるグローバル人材育成事業」に関わる国際理解教育講演会を実施する。</p> <p>②文化祭の際、海外研修中の様子や参加した成果等の報告・発表をポスターと紙面で行う。</p>	<p>①国際理解教育講演会が計画的に実施できたか。</p> <p>②海外研修後の文化祭の発表が計画どおり実施できたか。</p>			

学 校 関 係 者 評 価	
実 施 日 平 成 年 月 日	
学 校 関 係 者 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等	